


中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

国際連携AG(含TSAG対応TF)

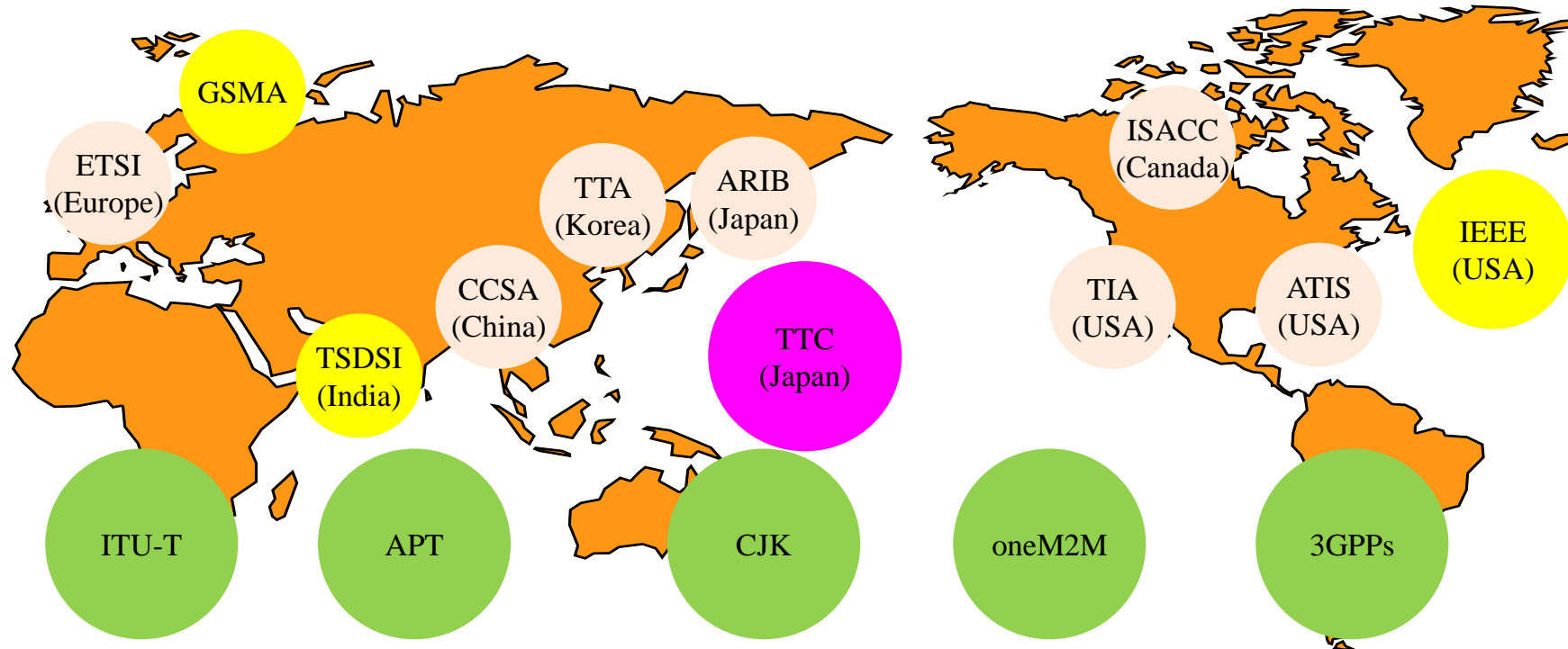
1/3

企画戦略委員	山田 徹 (NEC)	登録委員数	8名 (TSAG-TF:16名)
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダー	リーダー 荒木 則幸 (NTT) 、サブリーダー 本堂 恵利子 (KDDI)	図解	
活動の目的・意義	標準化活動における国際連携を強化するため、TTCの標準化戦略を国際的視点から検討することを目的とする。現在の主要検討対象組織はITU-T (TSAG会合)、GSC (グローバル標準化協調機構)、CJK、APT/ASTAPおよびETSI。		
活動する上での課題 (人材面や運用面での課題を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門委員会との連携 ・カバー範囲が広範 		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記会合への対処方針を策定する他、会合にも適宜参加し、入手した最新情報をTTCの標準化戦略の立案に役立てる。 ・ WTSA-24の開催に向け、ITU-Tの新会期における新規研究課題および体制構築に貢献する。 ・ 特定組織とのより密な連携が望ましいと判断された場合や専門委員会等から要請があった場合にはMemorandum of Understanding(MoU)を締結する。 ・ TTC大使との意見交換・情報交換を密にし、グローバルな標準化動向に関する情報収集等に努める。 		別紙参照
国内外の標準化団体等の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ ITU-T(TSAG会合)： ITU-Tの新会期における新規研究課題、体制構築、産業界の参加促進等の議論を活発に進めている。 ・ GSC： Smart CityやAI等にも関心を持ち新しい国際協調体制を模索している。 ・ CJK： パーティカルを意識したITS等の新規WGの設立を模索している。 <p>* なお、GSC,CJKについては、コロナ禍のため、会合開催が順延となっている</p>		

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ITU-T TSAG会合(12月) ITU-T新会期における新規研究課題、体制構築およびWTSA決議、Aシリーズ勧告の制改訂に向けた国内議論に着手 FG on Metaverse(FG-MV)設立に関する議論への参加 			
関連する専門委員会または外部組織とその内容	<ul style="list-style-type: none"> ITU-T次会期研究課題、体制構築を検討のため、関連するSG役職者と連携 			
主な活動項目	概況指標	2022年度目標(当初計画時)	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	TSAG(1件)、GSC(2件)、CJK(2件)	TSAG(1件)	
	外部会合への参加・連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ITU-T TSAG会合(10月)に向けて、日本対処方針案策定、日本寄書案作成への協力を行う。 CJK18会合およびGSC23会合に参加し、TTCの最新活動の報告、重点テーマに対するTTC寄書発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ITU-T TSAG会合(12月)において、日本対処方針案策定への協力、FG設立に関する寄書審議を実施。 CJK18会合およびGSC23会合は、コロナ禍のため、実施されなかった。 	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS: 回 TR: 回	TS制定: TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTC大使報告会	TTC大使報告会実施予定(2/10)	
	記事投稿、講演会	<ul style="list-style-type: none"> TSAG会合報告 WTSA-20会合報告 CJK18会合報告 GSC-23会合報告 	TSAG会合報告(予定)およびWTSA-20会合報告実施	

新テーマ及び重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ITU-T TSAG会合(6月および1月) に向け、ITU-T次会期における新規研究課題、体制構築およびWTSA決議、Aシリーズ勧告の制改訂に向けた国内議論継続 IRM会合(1月) に向け、APTにおけるWTSA準備会合(4月予定) における日本提案の策定への貢献 GSC会合(4月)、CJK会合(時期未定) におけるTTCの戦略報告、新規トピックスの寄書による貢献、動向把握・議論推進 			
関連する専門委員会または外部組織とその内容	<ul style="list-style-type: none"> 上記に向け、各SG役職者との連携強化 			
主な活動項目	概況指標	2023年度目標(当初計画時)	2023年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	TSAG(2件)、APT(1件)、GSC(2件)、CJK(2件)	-	
	外部会合への参加・連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ITU-T TSAG会合(6月および1月) に向けて、日本対処方針案策定、日本寄書案作成への協力を行う。 APT WTSA準備会合(4月予定) に向けて、日本対処方針案策定、日本寄書案作成への協力を行う。 CJK18会合およびGSC23会合に参加し、TTCの最新活動の報告、重点テーマに対するTTC寄書発表を行う。 		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS制定: 0件 TR制定: 0件	TS制定: TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTC大使報告会		
	記事投稿、講演会	<ul style="list-style-type: none"> TSAG会合報告(2回) APT WTSA準備会合報告 GSC-23会合報告 CJK18会合報告 		

Strategic collaboration with other SDOs/Forum



これらの内
GCAGでは、
特定技術を扱
う専門委員会
で対応してい
るもの以外を
カバー！！


Forms of collaboration	Examples
Participation	APT/ASTAP
Core member	CJK, GSC, one M2M, 3GPPs
MoU/LoI	ITU-T, ETSI, IEEE, TSDSI, GSM, etc

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

技術調査AG

1/3

企画戦略委員	山田 徹 (NEC)	登録委員数	8名
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダー	リーダー 齊藤壮一郎(沖電気) サブリーダー 神保光子(NEC)	図解	
活動の目的・意義	ICTに関する技術標準は公的標準化機関等で策定されたもの（デジュール標準）の他に、民間組織（フォーラム、コンソーシアム等）により自主的に策定された標準（フォーラム標準）がある。TTCはデジュール標準をベースに活動を行うが、フォーラム標準の動向にも注視し、必要に応じ自らの標準化検討対象としている。本AGは毎年、世界の主要なフォーラム活動を調査分析し、今後のTTCの標準化活動領域の検討に資するとともに、分析結果を報告書としてまとめ、TTCのホームページに掲載し、広く一般にもアピールする。		
活動する上での課題 (人材面や運用面での課題を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査対象とすべきフォーラムの選定 ・分析手法の確立 ・各専門委員会との情報交換と連携 		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	<ul style="list-style-type: none"> ・本AGは標準化そのものは行わないが、最新のフォーラム標準化動向の調査活動により、今後のTTCの標準化活動領域の検討に資することとする。 		
国内外の標準化団体等の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化団体の動向を調査し、年1回報告書にまとめている。 		

添付の各フォーラムとTTC専門委員会との対応表を参照

<p>新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新規調査フォーラムの選定にあたっては、企画戦略委員との連携を意識したデジタルツイン関連のDigital Twin Consortium、量子関連のOpenQKD、通信拡張関連のOpenXRを新たに調査対象とした。 また、コネクテッド・カー専門委員会から要望があったデータの標準化を進めているGAIA-X, Catena-Xも対象とした。 			
<p>関連する専門委員会または外部組織とその内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> すべての専門委員会から新規調査フォーラムについての提言を受け付けている。 調査結果について、企画戦略委員会を通じて、各専門委員会へのフィードバックを行った。 			
<p>主な活動項目</p>	<p>概況指標</p>	<p>2022年度目標(当初計画時)</p>	<p>2022年度実施状況</p>	<p>記事</p>
<p>① アップストリーム 他団体との連携</p>	<p>寄書数</p>	<p>なし</p>		
	<p>外部会合への参加・連携状況</p>	<p>なし</p>		
<p>② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート</p>	<p>JJ標準</p>			
	<p>TS/TR/SR</p>	<p>0件/0件/0件</p>	<p>0件/0件/0件</p>	
<p>③ ダウンストリーム</p>	<p>数</p>	<p>なし</p>		
<p>④ プロモーション 普及推進</p>	<p>セミナー</p>	<p>企画戦略委員会中間報告</p>	<p>企画戦略委員会中間報告実施(12/22)</p>	
	<p>記事投稿、講演会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム調査報告書 第29版 ・TTC Report 投稿 	<p>以下はQ4実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム調査報告書 第29版 ・TTC Report 投稿 	

新テーマ及び重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み

- 対象フォーラムの見直し
主にBeyond5G/6G、メタバース、量子暗号通信、グリーン関連、Web3等を中心に新たなフォーラムを調査対象とする。
引き続き、企画戦略委員会、専門委員会からの要望は積極的に受け入れる。
- 必要に応じて対象とする分野のカテゴリーの見直しは行う。
分析、分類手法の見直し
分析手法、分類手法についても、技術動向を踏まえ、見直しを行なっていく。

関連する専門委員会または外部組織とその内容

- すべての専門委員会から新規調査フォーラムについての提言を受け付ける。
- 調査結果について、企画戦略委員会を通じて、各専門委員会へのフィードバックを行う。

主な活動項目	概況指標	2023年度目標(当初計画時)	2023年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	なし	-	
	外部会合への 参加・連携状況	なし		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS制定: 0件 TR制定: 0件	TS制定: TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	企画戦略委員会中間報告		
	記事投稿、講演会	・フォーラム調査報告書 第30版 ・TTC Report 投稿		

